

## ■読みに困難のある子どもたちへの実践事例

# 読みが苦手な児童(支援学級・通級指導教室・通常学級)の意欲的な学びにつなげる

大阪府富田林市立大伴小学校

磯口 多恵子

### はじめに

前回の報告(「わいわい文庫活用術9」)では、「環境整備が整ってきた今後は、わいわい文庫を、学校の自分たちのタブレット端末に入れて、どの学年・学級・教室でも、すぐに見ることができ、聴くことができるように、先生方と協力して、一歩ずつあきらめずにコツコツとやっていきたい」と思っていました。ついに今年は、子どもたちにタブレット端末が届きました。また、本校では教員にもタブレット端末、ノートパソコンが一人1台配布されました。ありがたいことです。



今回の報告では、校内では前述のようにICT機器の環境は整ってきつつあります(とは言っても3～6年生までで

すが。また市内の各学校により使用の方法や頻度はさまざまです)。そして、大型テレビ、ケーブルも揃ってきつつあります。あとは、教員がそれを使いこなすことができるスキルを身につけることが課題です。



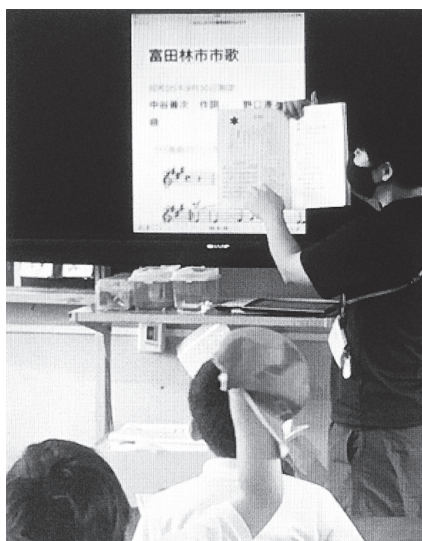
### 富田林市の取り組み

富田林市夏季研修会の支援教育部では、毎年先生方の要望をふまえて、夏季休業中に研修を実施しています。

富田林市では、通級指導教室担当者が中心になり、支援教育への共通理解を深め、一人ひとりのニーズに合った教材作りなどの活動をしています。

また、市内の小・中学校への支援体制や児童の支援方法の理解を広めていくための活動を行っています。市内の

巡回相談、基本的な知識技術・教材作成、教具の活用、校内連携・外部講師を招いての研修の企画、リーディングチームの講師による研修の企画、スキルアップの研修も毎年行っています。



行進曲のテンポで

夏季研修の中で、読みが苦手な子どもたちへの支援として、「マルチメディアDAISY教科書」の紹介・活用だけでなく、「わいわい文庫」の紹介・活用についても実施してきました。

「わいわい文庫」を活用しはじめて、はや10年がたちました。幸いにも「わいわい文庫」が市内全小学校で活用されつつあります。実際に子どもたちや先生方、私たちもすぐに「わいわい文庫」を使うことができるようになり、願い続けてきたことが現実になりました。うれしいことです。

富田林市教育委員会が「マルチメ

ディアDAISY教科書」「わいわい文庫」「(アプリの配布・配信および管理をする) <sup>モビアプリ</sup> mobiApps」を積極的に活用できるように推進して下さったのはとてもありがたいことです。市内の読み書きが苦手な子どもたちに活用できる機会が増えたことがうれしいです。

## 研修内容

### <本日の内容>

- 1, マルチメディアデジターの説明
- 2, 教科書  
わたしたちのくらし・富田林  
わいわい文庫
- 3, アプリの説明
  - 1) しゃべる教科書
  - 2) のじく等
- 4, ダウンロード方法
  - 1) 変換アダプター
  - 2) AirDrop
  - 3) 共有ドライブ
  - 4) QRコード



この研修の後、みなさんから感想やご意見をいただきました。そのいくつかを紹介します。

## 感想

- ①すぐに使えるアプリの活用方法を知ることができ、大変良かったです。  
「わいわい文庫」「マルチメディア

DAISY教科書」などもくわしく説明してくださり、ありがとうございます。学校全体で共有したいです。

②iPadを使った具体的な活用方法について、丁寧に教えていただき、2学期からすぐに使ってみようと思います。

③個別の支援のいる子どもたちに使えるアプリの紹介や、読みの支援で視聴覚教材をどのように活用すればよいかなど、具体的に教えていただき、2学期からすぐ活用しようと思いました。

④すぐに授業で使えるアプリと、その有効的な活用方法を詳しく教えていただき、ありがたかったです。実際にタブレット端末を操作しながらの研修だったのでよくわかりました。操作に戸惑っていると、サッとアドバイスしていただけたので、WEB研修でなくてよかったです。

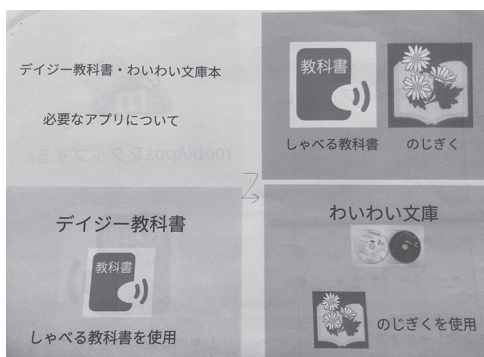
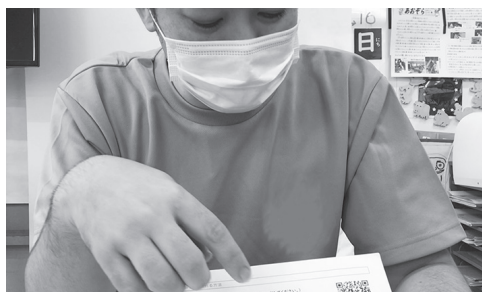


⑤音声教科書のさらなる活用など、たくさん教えていただきありがたかったです。

⑥マルチメディアDAISY教科書のくわしい説明が聞けてよかったです。

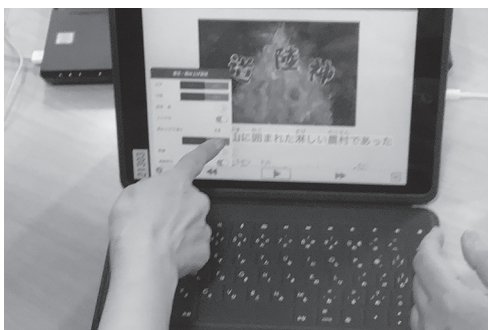
⑦タブレット端末での授業は、児童にとってとても興味をもって取り組むことができます。特に読み書きが苦手な子どもはノートと鉛筆を使う授業にどうしても抵抗があるようです。多種多様な方法でその子に合った手立てが必要だと感じています。よりよい指導方法を早く見つけ、2学期から指導に役立てたいと思います。

⑧一人1台で活用できるようになった環境で、支援生徒への学習に活用していこうと感じました。読むことが苦手な子どもには読み上げ機能を活用して、読むストレスを軽減したり、書くことが苦手な子どもにもタブレット端末なので興味をもって書くことができたりと楽しく学習できる幅が広がりました。





コロナ禍の中で行われたため、3密を避け、参加人数も各校2名までと絞って、校区を2分割して前半・後半に分けての研修でした。感想の中にあるように、WEBではなく、対面で行うことができて本当に良かったと思いました。前半では、音声がなくなるハプニングもありましたが、本当によかったです。



## 効果と今後の課題

機器は揃い、研修で「わいわい文庫」をいつでもどこでも聴くことができるようになったことは素晴らしいことです。

また、みんなで知恵を寄せ合っの研修のおかげで、ICTが得意でない者がタブレット端末でも聴けるようになったこともすごいことです。

ほとんどのの方が、「よかった、職場に広げていきたい」と書いてくださっています。



また、研修会后、伊藤忠記念財団に申し込み、「わいわい文庫」を早速送っていただいた学校が何校もあり、市内の学校に広まってきました。

このような研修を行うことによって、「読みの苦手な児童の意欲的な学び」に「わいわい文庫」がつかないでくれます。

お話、読み物、動画や絵本が、「読書すること・読み」につながります。そのことで、お話の世界をイメージができ、楽しめます。結果としていろいろな語彙が増えていき、知識が増えていきます。そういうツールとして、「わいわい文庫」はとても大切だと思います。「わいわい文庫」によって、「読みの世界」が広がり、「聴くの世界」も広がり、読み物を楽しむことができます。また、お話の世界にふれることによって、読み物をイメージすることで、心豊かに育てていけるもの、心を豊かに耕すことができるもの、学習の大きな学びを与えられるもの、それが「わいわい文庫」です。そういうツールとして「わいわい文庫」は必要です。

しかし、「実際には使えてない、どんなふうに学校生活に取り入れていけばよいかわからない」という声も聞きました。実際一人ひとり子どもたちの課題は違うので、一人ひとりに合わせた「わいわい文庫」の使い方を、また、通常の学級での使い方を、今後、毎日の実践の中で探っていかなければなら

ないと思っています。無理せず続けていくことができるようになっていくことが理想です。

こんなに素敵なツールが手に入ったのですから、忙しい、ほかの課題をやらなければならないからできない、使えないとあきらめるのではなく、一日にちょっとでも聴く時間をもてるように工夫して、ゆとりをもって「わいわい文庫」を聴けるようにしていきたいと思います。



— 子どもたちの笑顔のために —

